

叢智を結集してコロナに打ち勝とう！

川教組通信

No.6

2021. 7. 22

川口市教職員組合 川口市本町1-5-14

048-224-2032 kawakyoso@ia9.itkeeper.ne.jp

川教組「コロナ感染症への対応に係わる 緊急要望書」を元に交渉

通信No. 4でお知らせしたとおり、川口市教職員組合は過日、新型コロナウイルス感染症の対応に係わって、川口市教委に対して緊急要望書を提出しましたが、今号では、7月7日に行われた交渉から、市教委の回答内容と交渉の様子をお知らせいたします。

要望① 夏季休業中のプール公開は、課業日と同等の指導体制を組むことが困難であることから、児童の安全に十分配慮した指導が不可能である。市全体として中止を決定すること。

市教委回答「1学期中のプール指導については各校で工夫して実施していただいた。夏季休業中のプール指導については市内の状況を今のところ把握していない。」

★1学期中のプール指導については「低学年の児童が指導課のガイドラインの通りに"黙って"活動することは至難の業」「保護者からも安全面での問い合わせが多くある」といった現状が訴えられました。

★感染の危険を伴う夏季休業中のプール指導については、市として実施を取りやめた所も多くある中で、川口市教委が市内の実施予定等を把握していないことには大きな問題を感じます。市教委は「検討する」と回答しましたが、直ちに実態を把握すべきです。

要望② 学校に対するオリンピック並びにパラリンピックの観戦募集について、現状の感染状況では、安全・安心な環境での観戦は困難であることから、川口市として不参加を表明し、児童生徒の観戦を直ちに中止すること。また、中止に伴うキャンセルについても市教委の責任の下で行うこと。

市教委回答「現在、当初希望があった58校中41校からキャンセルが来ているが、市として一律に観戦を中止することは考えていない。」

★最も優先させるべきものは「子どものいのちと健康」です。

川教組はこの観点から、オリパラの学校連携観戦には極めて大きなリスクが存在し、残念ながら市として早期に観戦中止を決定すべきと主張しましたが、交渉で市教委の態度が変わることはありませんでした。



★交渉後に事態が急変し、東京都の緊急事態宣言等に伴って無観客開催が決定する中で、文科省も首都圏一都三県については学校連携観戦を中止するとの通知を発出しました。しかし、川口市教委は国・県の判断を待たずにもっと早く中止を決定すべきでした。

要望③ 夏季休業中の自宅勤務は、感染防止の観点から極めて重要な施策である。川口市教育委員会は休暇取得を積極的に推奨する立場であることを表明すると共に、「原則自宅勤務である」ことを改めて各校に周知し、取得促進の具体化も各校に求めていくこと。

市教委回答「学校の運営に支障のない範囲で学校長が認めるものです。できるだけ通勤を減らしていく必要があるが、一方で運営上必要な勤務もある。また、割り振り変更や夏休等を優先させていくことが大切。」

★学務課の言うとおり、割り振り変更や夏休等、本来夏季休業中に取得すべきものが優先されることは当然ですが、子育て中の職員を含め、年休の取得状況がギリギリの職員もいます。このような方は、不要不急でありながら夏季休業中に学校で勤務せざるを得ないのも事実です。今回、県が昨年よりも早く通知を出したのも、自宅勤務を申請しやすい環境をできるだけ早く整えるためでした。



★しかし学校長の中には、自宅勤務が"推奨されるべきもの"であるという理解が不足している方がいます。昨年は、周知すらされなかった学校もありました。

★さらに、なぜか今年になって市教委は、自宅勤務一日ごとに「自宅勤務報告書」を申請者に提出させることを各校に求めてきました。これでは、せっかくの自宅勤務も申請をためらってしまった方が多くいたのではないのでしょうか。

★自宅勤務は、通勤に伴う人流を避け、職場内の密を減らし、コロナウイルスの蔓延を防ぐために国が示した重要施策であることを、改めて確認する必要があります。

要望④ 市内教職員を対象としたワクチン優先接種日程を早急に具体化すること。教職員は、余剰ワクチンが生じたとしても児童生徒を学校に置いて接種会場に向かうことは困難であることから、夏季休業期間の8月中に優先接種が完了するようにすること。

市教委回答「いわゆる川口モデルによって、教職員への接種も進んでいる。今後も努力していきたい。」

★教職員のいのちと健康が大切にされる教育行政を私たちは切に望みます。接種が進めば、児童生徒への感染リスクを下げることが期待できます。市費職員も含めた全職員に対する接種が8月中に完了するよう、川教組は市教委に対して改めて要請しました。